

カトリックさいたま教区サポートセンター

～これまでの活動のまとめ～

2011年9月1日

カトリックさいたま教区サポートセンター
センター長補佐

矢吹貞人
斉藤紳二

9/11で震災発生から早6ヶ月となります。これまでのサポートセンターの活動をまとめ、これからの活動の展望と合わせてご報告します。

—これまでの経緯—

2011年3月

- 11日 東日本大震災発生（2：46PM）
直ちに、教区事務所に対策本部を設置、教区内信徒の安否確認を始める
- 12日 福島第一原発事故発生（1号機水素爆発）（3/15までに次々に爆発）
- 13日 谷司教・茨城県の見舞いと視察に（鹿島、水戸、友部）
- 15-17日 谷司教・仙台教区訪問（菊池司教と共に）
仙台サポートセンター立ち上げに協力
- 18日 さいたま教区サポートセンター設置
- 19日 仙台サポートセンターへのボランティアチームの派遣を開始
- 21日 地震・津波の被災者と福島第一原発事故からの避難者を教区内施設への受け入れの呼びかけを開始。（延べ、4家族を受け入れた）
- 22日 鹿島、水戸、日立の各教会にサポートステーションを設置すべく、助祭・
神学
生を先遣隊として派遣
- 28日 日立ステーションから脚を伸ばし、福島県いわき市を調査
救援物資の配布やボランティアの派遣などの支援を開始

4月

- 3日 仙台教区・平賀司教といわき教会で相談。湯本ステーションの設置となり、
間もなく、定期的なボランティアチームの派遣が軌道に乗る
湯本での活動は、避難所の訪問、独居老人宅訪問、傾聴ボランティア、
水などの物資の供給など
- 29日 「傾聴と心的外傷」—トラウマの理解とケア—研修会の開催

(講師:ウエイン師)(教区事務所にて)

30日 はじめて炊き出しのボランティア(川口教会)がいわき市の避難所へ

5月

4日 ベトナム人グループ(川口教会)の炊きだしがいわき市の避難所で
その後、フィリピン(川越)、ブラジル(栃木)、インドネシア(水戸)
などのグループの炊き出しが続く

7日 山下俊一氏による「放射能と健康」についての学習会開催(浦和教会に

て)

その内容はまとめられ、パンフレット「ほんとうに大丈夫?放射能」として、教区内と避難所等で配布

14日 サラ枢機卿と教皇大使、湯本ステーションといわき市内の津波の被害地を視察

15日 湯本教会に仙台教区司祭・氏家和仁師が着任。湯本ステーションをベースにしての救援活動が軌道に乗る

18日 大阪教区・岸和田教会 川邨裕明師湯本ステーション視察。その結果、ボランティア派遣(食事と傾聴のボランティア)が始まる

中旬 いわき市傾聴ボランティアグループ「みみ」との協力開始

6月

中旬 司教総会の結果、救援活動はオールジャパン体制となる。
さいたま教区は福島県南部を担当することに(これまで通り)

7月

2日 ボランティア感謝の集い(浦和教会)

8月

(湯本ステーション)傾聴、炊きだしを主に、物資供給など継続
いわき市のボランティアグループや教会の信徒と一緒に活動している
避難者はほとんど仮設住宅へ その支援に移行する

いわき市中央台高久にある仮設住宅のすぐ側に土地を借り受け、新たなサポートステーション(名称「もみの木」)を設置して活動する計画を進めて

いる クリスマスごろ開所の見込み

(仙台サポートセンター)継続的な派遣は中止している

—寄せられた震災の見舞金と義援金—

☼ さいたま教区への見舞金 38,957,462円

他教区、修道会、そして海外から「さいたま教区への見舞金」として寄せられたもの。

☼ カリタスさいたまに寄せられた義援金 29,672,813円

さいたま教区内の募金で集まったものが主だが、「救援活動のために」と指定して修道会その他から寄せられたものも含まれている。

☀ 分担金の免除

さいたま教区が被災教区であることから、中央協議会への分担金と日本カトリック神学院への分担金が3年間免除となることになった。加えて、中央協議会から、特別援助金が3年間、毎年1,000万円交付されることも決定された。

—主な活動内容—

☀ 被災者の受け入れ

現在までの受け入れ状況（8/31現在）

（福島県双葉町から埼玉県へ） 1家族 研修施設（1） 教会（1）

（福島県いわき市から埼玉県へ） 1家族 グループホーム（1）

（福島県いわき市から群馬県へ） 1家族 教会（1）

☀ ボランティアの派遣

さいたま教区サポートセンターが立ち上がってから107名のボランティアが派遣され、3月28日から数えて第20グループ（8/11出発）がいわき湯本STNへ行く。

ボランティア登録を下さった方も150人を超えた。

いわき教会の信徒、地元の「みみ」（NPO法人）傾聴グループと一緒に、避難所から仮設住宅に移られた方々を訪問し、傾聴を主に活動を展開している。毎週金曜日に、いわき教会で地元のグループ（「みみ」）などと「傾聴」の活動の協力のための打ち合わせをおこなっている。

現在、さいたま教区を通じて仙台教区へのボランティア派遣は行っていない。東京ボランティアセンターもしくは、直接仙台教区へ登録して頂いている。

☀ 湯本ステーション

天井が落ちて中に入ることができなかった湯本教会と隣の元修道院の取り壊しが完了した。そのまま残される司祭館に設けられた湯本ステーションは、今までどおり。日曜日にはミサが行なわれている。

☀ 南三陸町ボランティア活動

スリ・ワルヨ神父とパリヤント・マルティネス神父を中心に水戸・つくば教会の信徒と横浜・神戸からのインドネシア人のグループが訪れた。瓦礫の撤去作業に継続的に行った。（5/28～7/3、延べ30名が参加）。また、登米市南三陸の横山仮設住宅へ炊き出しに行きました。

☀ 炊き出しグループ

4/30 川口グループ（平体育館） 5/4 川口・ベトナム人グループ（中央台公民館）

6/11 ブラジル人グループ（平体育館）

6/11 館林教会グループ（湯本教会）

7/16 フィリピン人グループ（南の森スポーツセンター）

7/17 ベトナム人グループ（郡山市ビックパレット）

☀ 物資の提供

教区内だけでなく、教区外からも多くの個人や教会共同体から、その時々に必要な物資を提供していただいた。直後は水や灯油など、続いて、生鮮食品類などの要望が高く、仮設住宅へ

の移転が近づくと、様々な家庭用品などの要望が多く寄せられた。仮設に移られた現在では、物資の提供はほとんど必要がなくなってきていて、原則としては行っていない。

☼ 見舞金など(8月31日現在)

7月中旬から配布を開始。9月中旬までにほぼ配布を終える予定。

茨城地区 教会(5) 修道会(1) 幼稚園 (1) 個人宅 (6) 合計 7,930,000 円

栃木地区 教会(2) 修道会(2) 幼稚園 (1) 施設(3) 個人宅 (1) 合計 8,480,000 円

群馬地区 教会(0) 修道会(0) 幼稚園 (0) 施設(0) 個人宅(7) 合計 250,000

円

☼ 義援金について(8月31日現在)

これまでの支出は 総額 9,821,139 円 です。

主な用途は、被災者のための救援物資の調達、ボランティア派遣費用(ガソリン代など)、湯本サポートステーションの立ち上げ費用と維持経費、受け入れ家族に関わる水光熱費など、となっている。なお、派遣ボランティアの食費等は自己負担となっている。

—今後の活動の展望—

☼ いわき市仮設住宅の隣のサポートステーションを設立

いわき市中央台高久に土地を借り、新しいサポートステーション「もみの木」をクリスマス頃の完成を目指して建設する予定。その前にも、出来るだけ早く、仮設住宅の近くの既設の建物を借りて、「もみの木」のスタートの準備に入りたいと考えている。付近には仮設住宅が9棟でき、完成すると約千所帯が入居予定との事。

☼ 「もみの木」での活動

「もみの木」は2階建てのログハウスの予定。阪神淡路大震災のとき、被災者の方々が仮設住宅に移られた後は何も支援することが出来ず、孤独死などの悲劇が起こったことの反省に立って、2~3年の長期にわたっての支援活動をする事になると思われる。

夢としては、お年寄りのデイケア、お茶やコーヒーなどのサービス、傾聴、子ども広場、子ども図書館、炊き出し、野外コンサートなどができる空間になればという構想。子ども新聞などの発行も考えられる。皆さんから寄せていただくアイデアで夢はさらに広がるであろうと期待している。

☼ 今後のボランティア派遣と養成

新しいステーション「もみの木」が出来た後は、これまでとは異なる多様な活動が予想されることから、いろいろなボランティアが可能となると期待されている。傾聴ボランティアが主軸となることには変わりないが、今後、具体的に呼びかけを行う予定なので、ふるって参加くださることを切望している。

(以上)